

## JMOOC プロジェクト構造化学習ユニット説明会結果報告（要旨）

日時：2022年1月6日（木）10:00～11:30

開催方式：オンライン開催

主催：日本ESD学会、JMOOC

参加者：17名

日本ESD学会関係者：6名、JMOOC関係者：4名、日本ESD学会員：7名

プログラム

10:00～10:10	開会挨拶と経緯・趣旨説明：見上学会長
10:10～10:25	PV15分版映写
10:25～10:40	講義の特長、ポイントの説明：佐藤委員、湯本委員、河野委員 (各5分)
10:40～11:00	構造化学習ユニットの説明：阪井委員
11:00～11:30	質疑・意見交換
11:30	閉会

議事概要

司会：日本ESD学会 鈴木副会長

○開催挨拶、経緯の説明：見上日本ESD学会会長

- ・JMOOCから学会に提案があり、共同開発を始めた。
- ・学会からは佐藤、湯本、河野会員に参加いただき、後日鈴木会員にも全体管理の補佐として加わっていただいた。JMOOC側からは阪井氏、吉澤氏、斎尾氏、渡邊氏、岡田氏等に加わっていただいた。
- ・パンデミックにより大きな影響を受け、当初のアクティブラーニングを取り入れた講義型のハイブリッドの講義の開発から、計画を修正し、アクティブラーニングを基軸としたハイフレックス型に変更し、オンライン授業に組み込み可能なオープンリソース開発を目指すこととした。
- ・佐藤、湯本、河野会員による3コースを開発した。3人の異なる個性が反映された内容になったと自負している。
- ・本事業は、資金的にはJMOOCに貢献いただいているが、学会とJMOOCが対等な立場で協力した画期的な事業である。実装に当たっては、オンラインリベラルアーツ講座と位置付けている。
- ・今後、さらに数名の会員に参加してもらい、開発した教材のブラッシュアップを図りたいと考えているので、参加を希望する会員は是非申し出てください。

○プロモーション・ビデオ（15分版）視聴：[https://youtu.be/6\\_KXfF40uSY](https://youtu.be/6_KXfF40uSY)

[参考] プロモーション・ビデオ（2分版）<https://youtu.be/jPSPcQ06JO8>

○3人の講師からの紹介

- ・佐藤：アクティブラーニング的に作成。学生たちの素朴な質問に答えるように斎尾委員との対話形式でSDGsの基本をわかりやすく解説。本事業は、いろいろなパターンの内容をパッケージ化した点が特徴。社会的、歴史的な文脈を踏まえて学生目線に答える形でのテキストを創れたことに醍醐味を感じている。
- ・斎尾：学生にわかりやすくなるように、苦勞して平易な言葉遣いを工夫されている点に注目いただくと良いと思う。
- ・湯本：地球社会篇を担当。8回の講座を作成。20～30名を前提としたグループワークを念頭に置いているが、オンラインであればそれ以上の人数を担当することも可能。日常生活の中で学生が身近に関わっているものから地球環境について考えるような構成にしている。
- ・河野：私も身の回りの生活から学生に考えてもらうような構成にしている。当たり前になっている人・もの・ことをとらえ直そうとしている。学習者の反応を見ながら柔軟に授業を作り直していくことを想定している。
- ・斎尾：佐藤委員は、あまりSDGsに関する意識の高くない学生に対して言葉を工夫して説明いただいている。湯本委員と河野委員は、ワークショップを実施してみたいけれどどうして良いかわからないという教員、SDGsについてこれまで学んでいないけれど授業を担当しなければならないと不安を抱えている教員に対して、どうすれば良いかというヒントをいろいろ与えてくれるものと受け止めていただくと良いと思う。

○構造化学習ユニットの説明：阪井委員

当日資料は以下のURLから閲覧可能

<https://docs.google.com/document/d/1ix-Ydk-HI3grHe6575ujKYn3LonSVgEMTFrrFd6gQTU/edit?usp=sharing>

- ・3人の委員の教材に関し、学習ユニットのウェブ版とその活用のイメージを解説する。資料は以下のURLからダウンロードできる。

**【注：現在再調整中のためダウンロード不可。3月中旬に公開予定】**

- ・学習ユニットのjsonファイルは以下のURLから左クリックして獲得可能。

**【jsonファイルも現在再調整中。3月中旬に公開予定】**

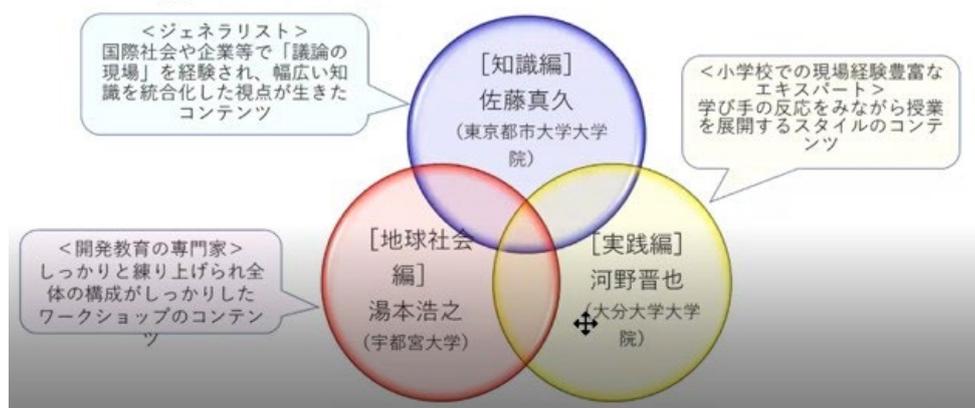
分類	単元	タイトル	著者	json
地球社会編	単元1	私たちの暮らしに「必要なもの」とは？（オンラインの場合）	湯本 浩之 （宇都宮大学）	<a href="#">slu60_sdgs011_yumoto_online.json</a>
	単元2	衣食住から見える地球社会の現状と課題：(1)私たちは何を着ているのか？（オフラインの場合）		<a href="#">slu60_sdgs012_yumoto.json</a>
実践編	単元4	「値段が安い」ってどういうことだろう ～わたしたちの消費行動について考える～	河野 晋也 （大分大学大学院）	<a href="#">slu60_sdgs024_kono.json</a>
知識編	単元1	SDGsってなんですか？	佐藤 真久 （東京都市大学）	<a href="#">slu60_sdgs031_sato.json</a>

※完成版の学習ユニットWeb版では、前記のファイル一覧がトップページに一覧表示される。

- ・編集画面に入ると編集可能になる。自分が利用できると思う部分を適宜コピー&ペーストすると良い。
- ・テキスト、パワーポイント、動画をダウンロードできる。
- ・3人の委員の教材に関し、何を学ぶかに関して学習素材の数、どう学ぶのかに関してガニエの指標、場の設定モード、対話モード、視界モード（虫の目、鳥の目）、事由モード（事実か推測か等）などを用いた分析を行っている。

### 三つの授業の構成の特徴

- 三つの授業の特徴をまとめると・・・



- ・鈴木：少し説明が難しかったかもしれないが、今回初めて学習ユニットの具体的な内容が示されたので、まずダウンロードして使ってみて、使い勝手がどうかとか、このような改善がされると良いとかいった意見を、できれば年度末までに事務局にいただけると有難い。

### ○質疑・コメント

- 各コースの特徴を俯瞰的に整理したことが印象的。このように多様なものをパッケージ化したものは少ないので、今後どう発信していくのか、また、知見としてどう発展させることを考えているのか？
- この分析は初めての試みであるが、アクティブで創造的な教育活動の側面の一部はとらえられているのではないかと考えている。まだ試行的なものであるが、さらにオープンな議論を通じてブラッシュアップしていければと考えている。この手法によりデータを共有できる点が大きなメリットである。学生たちは、授業のコンテンツだけでなく、授業の進め方に大きな影響を受ける。そのような授業の進め方を明らかにする手法として今後さらに発展させていければと考える。
- 今後、トップページに入れば全ての資料にアクセスできるようにウェブサイトを改善していくことにより、より使いやすくなる。将来的には、全体の授業の計画案とそれを構造化した特徴が一覧で見えるようなものをPDF化したいと考えている。今でもテキストベースでコピー&ペーストして使えるので、公開に踏み切ることとした。
- 2014年の世界会議に向けて環境教育とか開発教育といったテーマ別の事例集を電子書籍として取りまとめた。残念ながらこの電子書籍はまだ市場が狭かったために普

及しなかったが、先ほどの話を聞いて新たな電子図書館ができたと思った。日々積み重ねられている実線事例などを将来は紐づける、集積するような学びの図書館ができると期待したい。

- 電子書籍そのものをユニットとして集積する方法、それを素材として活用する方法の2通りが可能と考える。
- 大変興味深いが使えるか少し不安があるとのコメントをチャットにいただいている。
- 東京の小学校の教員で今は英国に留学しているが、45分と言うかぎられた授業時間の中でどのように授業を組み立てていくか日々悩んでいる。このプロジェクトは、授業に活用できるので興味深く聞かせていただいた。
- 構造化ユニットの議論は大変興味深いので、学会として大胆に展開できないかと思う。放送大学型のeラーニングから脱却する新しい可能性を開けるのではないかと思う。学会として、どう使えるか、どう改善できるか積極的に取り組んでいきたい。
- 皆がわいわい議論するような小さな討論会を何回か企画すると良いのではないか。

(了)